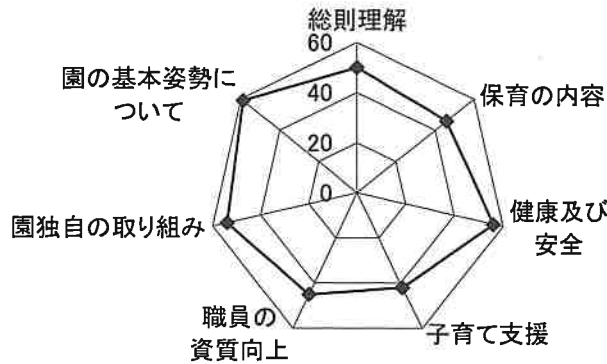


## 令和4年度自園評価結果

### 【項目別取り組みの達成度(%)】

	総則理解	保育の内容	健康及び安全	子育て支援	職員の資質向上	園独自の取り組み	園の基本姿勢について
R3 年度	46	42	50	49	33	58	56
R4 年度	50	46	56	42	45	54	59



### 【評価・分析 ～自園の強み、弱みの把握とその要因～】

前年度より多くの項目において達成度が上がった点は評価できる点と言える。

中でも過去数年伸び悩んでいた「職員の資質向上」は大幅に達成度が上がっており、園独自の取り組みである「かみかみ通信簿」や器械運動、個人目標の家庭との共有等、保育士一人ひとりが「子どもたちのために」という思いでそれらを途絶えさせることなく継続し、日々経験を積み重ねて来ていることが、そのベースとなっているのではないかと加えて、キャリアアップ研修を受けた専門リーダーによる現場への還元や不適切保育の見直しも良い結果に繋がった。現場への還元では、研修内容を報告するだけでなく、リーダーが提示した課題にクラスごとに取り組み、実践を通して保育に必要な技能や着眼点の向上を図った。不適切保育の見直しでは、チェックリストによる振り返りを行って自分の問題点を認識し、それらを具体的にどう改善していくのかについて職員全体で研修を重ね共有を図った。その話し合いの過程において徐々に為されて行った個々の意識の改変が資質向上に繋がったものと思われる。

とは言え、依然、達成率は50%前後であり、キャリアアップの課題が研修期間だけで終わり次の実践に繋がっていない点などは反省すべきである。引き続き、常に現状に疑問を持ちながら保育をする姿勢が必要である。

「保育の内容」に関しては、前年度に引き続き、月の中間に指導計画の振り返りの場を設け、ねらい、内容、方法は適しているか、時間配分、環境構成はどうか、子どもへの関わり方、言葉のかけ方、援助、介入のタイミング、子ども達の主体性を尊重していたか、それらに対してどのように改善・修正するのか等について、互いに意見を述べ、共通認識、共通理解を図ることで、同じ方向を見て保育しようとする心構えを持ち日々過ごしていることが、達成度のアップに繋がったものと考えられる。

「子育て支援」においては、達成度が伸び悩む結果となった。コロナ禍で保護者とのコミュニケーションを取る機会が減少しがちとなったり、お便りや連絡ノートなどで子どもの様子を伝えたり、参観会や懇談会でクラスや園の方針を伝えたりしているようでも、それらが一方通行になりがちであったりと、限られた時間の中で信頼関係を築いて行くことは、やはり容易ではなく、なかなか手応えが得られないことを実感している。

### 【具体的な改善策】

- ・学期ごとの個人目標だけでなく、連絡ノートの質を上げ、出来事のみを記す物にならないよう、専門職の視点で子どもの成長を伝えたり、困り感、悩みなども共有したりする物として活用し、より双方向のやりとりができるような書き方、内容に向上させて行く。
- ・気になる子の共有が、動向の報告に終わるのではなく、どう支援したか、どのような支援が必要であるかの共有に重点が置かれるよう努める。